

9 研究活動と研究環境

進捗状況報告

経営戦略専攻

【9.1.1 経常的な研究条件の整備】

教員の研究活動を支援するため、学術文献のデータベースの整備に取り組んでいる。2005年度はProQuest ABI/INFORMを購入し、2006年度からはトムソン社の株式・金融の総合データベースであるデータストリームを導入した。本データベースは、商学部、経済学部と共同購入という形をとり、商学部、経済学部の持つ、補完的な株式・金融のデータベースである、野村証券オーロラデータベースの資金を一部負担することで、教員のそちらへのアクセスも可能とした。また、アメリカ・カナダの上場・上場廃止企業24,027社の各種データを入手できるCompustat DBの北米版を購入し利用している。

【9.1.2 競争的な研究環境創出のための措置】

教員の競争的な研究環境創出のため、外部の競争的資金の獲得を強く促している。また、研究業績データベースの更新についても頻繁に呼びかけ、競争的研究環境創出につとめている。

【9.1.3 研究上の成果の公表、発信、受信等】

「経営戦略研究会」を立ち上げ、研究成果の発表を行う「ビジネス&アカウンティングレビュー」を刊行し、2006年3月に創刊号（第1巻第1号）、2007年3月に第2号（第2巻第1号）を発行した。本冊子は年1回発行し、毎年6人の研究者が成果を公表している。また、研究成果と共に教育の実践、企業での事例、会計制度の解説、学生が参加したプロジェクトの報告などを掲載することを目的とし、一般向け雑誌として「IBAジャーナル」を2007年4月に刊行した。

【9.2.1 研究活動】

経営戦略専攻では、

- ・2005年度に2名、2006年度に2名、国際学会において研究発表をしている。
- ・2005年6月～2008年3月、NEDOの補助金「リアル・オプション理論と日本特許データを用いた技術開発価値及び地財価値評価に関する研究」が選定された。
- ・2006年度、2007年度、大学改革推進事業・専門職大学院等教育推進プログラム：ケース「現代企業家の戦略的役割」の製作が選定された。
- ・2005年度1件50万円、2006年度3件460万円、2007年度4件1365万円の科研費を得た。

【9.2.2 研究における国際連携】

2005年度に2名、2006年度に2名の教員が海外の研究者との共同研究を推し進めている。さらに、2008年度には、Satya Wacana Christian UniversityのMarwata教授を招聘し、本研究科の教員とインドネシアの会計についての共同研究を行う。

会計専門職専攻

【9.1.1 経常的な研究条件の整備】

教員の研究活動を支援するため、学術文献のデータベースの整備に取り組んでいる。2005年度はProQuest ABI/INFORMを購入し、2006年度からはトムソン社の株式・金融の総合データベースであるデータストリームを導入した。本データベースは、商学部、経済学部と共同購入という形をとり、商学部、経済学部の持つ、補完的な株式・金融のデータベースである、野村証券オーロラデータベースの資金を一部負担することで、教員のそちらへのアクセスも可能とした。また、アメリカ・カナダの上場・上場廃止企業24,027社の各種データを入手できるCompustat DBの北米版を購入し利用している。

【9.1.2 競争的な研究環境創出のための措置】

教員の競争的な研究環境創出のため、外部の競争的資金の獲得を強く促している。また、研究業績データベースの更新についても頻繁に呼びかけ、競争的研究環境創出につとめている。

【9.1.3 研究上の成果の公表、発信、受信等】

「経営戦略研究会」を立ち上げ、研究成果の発表を行う「ビジネス&アカウンティングレビュー」を刊行し、2006年3月に創刊号（第1巻第1号）、2007年3月に第2号（第2巻第1号）を発行した。本冊子は年1回発行し、毎年6人の研究者が成果を公表している。また、研究成果と共に教育の実践、企業での事例、会計制度の解説、学生が参加したプロジェクトの報告などを掲載することを目的とし、一般向け雑誌として「IBAジャーナル」を2007年4月に刊行した。

【9.2.1 研究活動】

会計専門職専攻では、

- ・2005年度に1名、国際学会において研究発表した。
- ・2005年度3件230万円、2006年度1件100万円、2007年度3件1299万円の科研費を得た。
- ・教育プロジェクト「地方自治体改革に貢献する会計専門職の養成」が、2005年度文部科学省の「法科大学院等専門職大学院経営支援プログラム」に選定された。

学内第三者評価

「経営戦略研究会」を立ち上げ、「ビジネス&アカウンティングレビュー」および「IBAジャーナル」を刊行したこと、4種類の文献等データベースの導入等を行ったこと、国際学会で研究発表を行ったこと、さらには科研費の件数、金額の伸び等で順調に計画通り進行しているのは高く評価できる。